

平成17年第2回北信広域連合議会臨時会において
「長野県立高校「再編整備候補案」を白紙撤回し高校教育のあり方を求める意見書」
が可決されました。

長野県立高校「再編整備候補案」を白紙撤回し高校教育のあり方を求める意見書

北信地方事務所管内は広大な面積と日本有数の豪雪地帯もあるなど、住民の日常生活条件はけっして恵まれているとはいえません。しかし、住民は、こうした立地条件を活かす創意と努力で、日本有数の農業生産地域と観光地域にしてきた。この地域産業や観光が発展するうえで、地域高校卒業生が果たした役割は大きなものがあり、こうした若者が、21世紀に向かっての新たな“むらおこし”“まちおこし”に積極的に取り組む担い手となっている。

ところが、長野県教育委員会は、こうした地域の現状を十分掌握しないで、しかも、北信地方事務所管内の全6市町村をはじめ、長野県下の数十の議会から、拙速な結論でなく県民合意の高校改革を求める意見書が提出されたにもかかわらず、一方的に、公立高校の規模を「76校が目安」として「統廃合候補校名」を発表した。その結果、北信地方事務所管内でも学校関係者はもとより、高校生や中学生、その父母などに大きな不安と憤りが広がっている。こうしたもとでも、「統廃合候補校」といわれる高校では、地域に密着した農業、スポーツ、福祉などを積極的に取り入れ、成果を上げている。

もし、北信地方事務所管内の“人口減”を理由に、いまある公立高校7校を4校に統廃合すれば、若者の教育権が奪われ、これまで以上の人口減を生み、地域の活力を弱め、また、大切な自然を壊し、立地条件を活かした農業や観光、長く続いてきた伝統ある祭りなどが失いかねない。

いま、地域住民はもとより、自治体首長と議会がこれまでの地域のよさを掘り起しするなど創意を発揮し、住民と行政が一体となって、希望ある地域と自治体を目指して真剣に努力している時、こうした取組みとはなれて、県立高校の「統廃合」など、到底考えられない。

よって、北信広域連合議会は、長野県教育委員会に対して、下記事項を速やかに実行することを強く求めるものである。

記

- 1 「長野県立高校再編整備候補案」を、ただちに「白紙撤回」すること。
- 2 長野県高校教育のあり方を、教育と地域振興など総合的視点から示すこと。
- 3 市町村や住民、学校、父母、生徒達の意見を十分聞き、「高等学校改革プラン推進委員会」で十分な議論を行い、地域住民が納得できるものにすること。